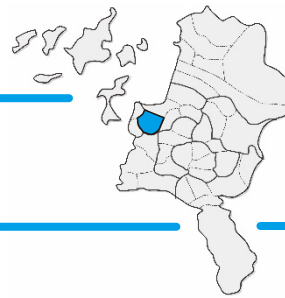


みや まえ 宮前地区

人口: 14,213人(高齢化率33.3%)

世帯数: 7,096世帯

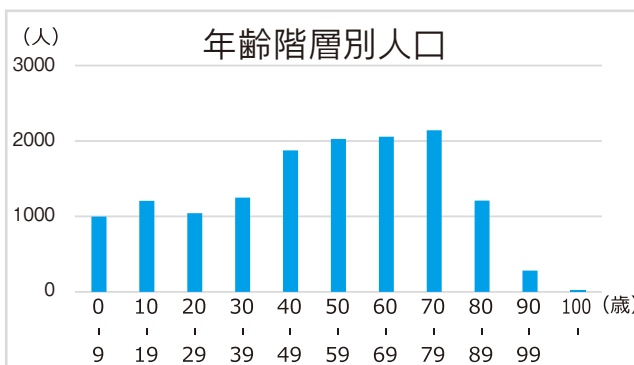


【地区の特色】

宮前地区は、松山市の北西部に位置し、松山の海の玄関である三津浜・高浜地区に隣接している。以前は農業を中心とした地区であったが、近年は商業施設や宅地の造成等が進んでいる。また、文楽「伊予源之丞」や虎舞といった郷土芸能、文化財史跡の保存にも力を入れ、あらゆる活動を通して明るく住みよいまちづくりを推進している。



郷土芸能文化祭



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校のグラウンドにて防災訓練を行い、避難経路の確認や炊き出し訓練を行っている ・新しい家、若い世代も増えて、一部では子ども会も復活し、三世代交流が行われている ・高齢クラブやグラウンドゴルフ愛好者などが、利用する公園や地域の美化に努めている ・公民館が中心となって、伝統芸能の伝承活動の支援、サークル活動の発表や個人の作品の展示会など、各種の文化活動が盛んである ・交通機関、医療福祉施設、生活関連施設、教育施設等も充実しており、住みやすい ・様々な団体との連携、協力体制がよく、役員OBとの連携も継続している ・三津教会の子ども食堂(フードバンク) ・75歳以上の高齢者の把握(約2,500人訪問) ・内浜町で子どもと地域の人がラジオ体操をする(夏休み)
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・地盤の低い一部の地区や道路の狭い地区では、災害など緊急時の避難体制に不安がある ・要援護者の把握と支援体制が不十分で、地域防災との連携強化が必要である ・町内会加入世帯の減少に伴い、近隣との関係が希薄な地域もある ・各団体のリーダーの高齢化が進み、次世代リーダーの育成が遅れている ・災害時一斉連絡の手段がない ・子ども会が減っている ・祓川町の町内放送のスピーカーを危険があったため撤去されたので、災害時に困る ・高齢者の情報弱者多い(IT化やスマホの普及)
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> ・年々高齢者が増加し、独居高齢者・高齢者世帯の対策が必要 ・増加する高齢者、要支援者の把握 ・介護が必要にならないようにするための対策(健康寿命の促進方策) ・近所づきあいの希薄化、地域コミュニティ不足への対応 ・ひとり親世帯や障がい者の実態把握と支援体制 ・高齢者で耳のとおい方の電話対応が難しい ・民生委員が訪問すると嫌がられ、氏名を名乗れと言われる

宮前地区社会福祉協議会

次世代へ つなぐ福祉のバトン 温かく

構成団体	地区民協・公民館・PTA・母子会・保護司会・婦人会・高齢クラブ連合会・支所 中学校・小学校・広報連絡協議会・サロン(緩和型含む)代表者・子ども会連合会
主な取り組み	活動内容
3地区合同施設訪問	毎年、三津浜・高浜・宮前地区が合同で、地区外の福祉施設に入所された地元出身の方々を訪問・激励しています。
高齢者の見守り活動	民協会と協働して75歳以上の高齢者や寝たきり・独居高齢者を訪問して品物を贈り、現況を確認するなど見守り活動を行っています。
地域団体との連携	地域で活動している様々な団体に助成を行うとともに、情報共有して連携した活動が強化されるよう取り組んでいます。

福祉学習事業

宮前小学校のこどもたちが地域の高齢者や障がい者を招いて体験学習をしています。

見守りをしている独居高齢者に、暑中見舞いや年賀状、手作り作品を送っています。



<地区社協が目指すもの>

宮前地区社協は、基本理念を「次世代へ つなぐ福祉のバトン 温かく」とし、地区内の各団体や、小・中学校へ支援をし、福祉活動を推進しています。

宮前地区社協独自の活動に地区民協と協力し、75歳以上の高齢者を毎年9月に訪問し、敬老の記念品を渡し「悩み事相談」を行い現況の把握に努めています。

また、年間を通じて定期研修を行い地区の人達や各団体と連携して、健康寿命を延ばす活動を行い心豊かに安心して暮らし、次世代へつなぐ地域づくりを目指して行きます。

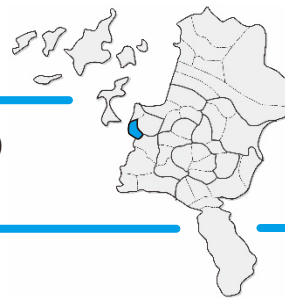
地区の状況	■地区民協	23名 2名	■町内会・自治会・区長会等	32団体
	民生委員		■高齢クラブ	3クラブ
	主任児童委員		■子ども会	20団体
	■まち協の設立	—	■自主防災組織	30組織

交通至便、教育・医療・福祉施設も充実、転入者が多い地区で、子ども会復活の動きもみられます。様々な団体間の関係がよく、連携体制がとれていることが地区の特徴です。「次世代へつなぐ温かい地域」という理念を大切に、地区社協の活動が展開されています。世代間交流活動においては、新旧住民がなじみ、ともに地域の一員であることを実感できる機会を提供しています。高齢者(約2,500人)の訪問は、地区社協ならではの細やかな関係作りや現状把握の機会として貴重な取り組みです。子ども食堂(フードバンク)などの地域資源とも連携をとっていくことや、担い手を確保するための新たなスタイルを取り入れ、次世代につないでいくことが期待されます。



三津浜地区

人口:4,653人(高齢化率37.5%)
世帯数:2,532世帯

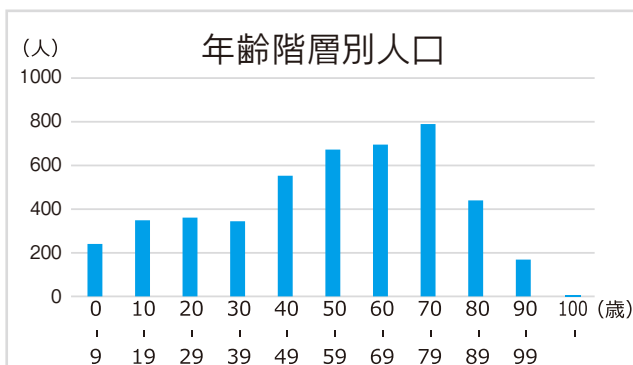


【地区の特色】

三津浜地区は、松山市の西部に位置し、南には松山空港、北には海の玄関口である松山観光港があり、それらの中間部に位置する。江戸時代から藩港として開け、明治以降海運や商業の町として栄えてきた地域である。地理的には宮前川と瀬戸内海に挟まれた海岸沿いの狭い地域に人が居住しており、コンパクトシティ的な町並みが形成されている。地域には三津と港山を結ぶ「渡し船」や古民家がある等昔の情緒が多々残っており、「花火大会」が開催される等近年町に賑わいがみられる。



瀬戸内海側から見た三津の街



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・街並みが古く、昔の雰囲気情緒が色々残っている地域である ・社会資源が豊富で、陸海空の交通アクセスが良く生活に便利 ・自然災害が少なく、安心して暮らせる地域である ・このような地域環境を背景に、近年三津浜地区への移住者が僅かではあるが増加傾向にあり、若者の挑戦・活躍に期待がかかる ・各種団体の役員がリーダーとなって地区の活性化に努めている ・渡し船、三津浜焼き等をアピールして地区の盛り上がり・活性化が期待できる
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のリーダー(役員・スタッフ等)として活動している人は高齢者が多く、一人が多くの役を引き受けている ・リーダーの交代が進んでおらず、若い人が力を発揮出来る環境整備が必要な状況にある ・住民どうしの交流の場が少なく、世代交流の機会も少ない ・空家・空き店舗が増加していて、近頃は安全管理上、老朽家屋の解体更地化が散見される ・狭い道路が多く危険で、一時停車も禁止区域が多く、外来者用駐車場の確保が難しく、車社会に合っていない ・戦災に合っていない為、区画や道路整備が出来ていないが、人口密集地であり整備が困難 ・少子高齢化がより進んでおり、町内会数38に対し、子ども会が減少している為、町内会の下部組織として一体運営が出来ない状況にある ・三津浜地区にあった古来伝統文化が伝承されず、一部途絶え消滅状態にある
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者のゴミ出し、買い物、通院支援が必要であり、これらを行う手段の確保が必要 ・ヤングケアラー、引きこもり家族のいる家庭、一人親家族、老々介護世帯等に対する福祉サービス事業の多様化が進み、情報収集と対策支援が必要である ・高齢者と若い世代の交流が少ない ・自主防災組織の再建(今在る既存組織が十分に機能しておらず再構築が望まれる) ・団体の活動が縦割れしており連携が不十分。各団体が一堂に会する話し合いの場等が必要 ・個人情報保護法が壁になり、きめ細やかな福祉活動がその先へ進めない事が多々ある

三津浜地区社会福祉協議会

ふれ合いで、笑顔あふれる、三津の街

<拠点> 松山市住吉2丁目5番25号(ふれあいサロン三津浜内)

構成団体	地区民協・公民館・子ども会育成者連絡協議会・高齢クラブ連合会・広報部会 自主防災組織連合会・松山西交通安全協会三津浜支部・母子会・保護司会第9分区 中学校・小学校・PTA・婦人会・西地区少年警察ボランティア協会・まちづくり協議会
-------------	--

主な取り組み	活動内容
3地区合同施設訪問	毎年、宮前・高浜・三津浜地区が合同で、地区外の福祉施設に入所された地元出身の方々を訪問・激励しています。
三津浜地区敬老会	毎年敬老の日に、地区の社協とまち協が協働で80歳以上の高齢者約500人強を対象に敬老行事を実施しています。会場に参集して頂ける健康な高齢者のフレイル予防のため、式典や小・中学生、地域の方による余興等を楽しんで頂く様企画しています。
基金の有効利用	高齢者福祉、青少年の健全育成、地域交流促進等のために各種事業の実施に当り、善意の基金(兼清福祉基金)の有効利用に努めています。

伊予鉄三津駅前花壇整備

地域福祉サービス事業の一環として、年間を通じ三津浜地区の協力会員が三津の玄関口である伊予鉄三津駅前帯の環境美化のために水やりと花壇の清掃に取り組んでいます。



<地区社協が目指すもの>

三津浜地区では急速に少子高齢化と過疎化が進み、高齢化率は約38%で市街地では高い比率となっており、今後も上昇すると見込まれています。

このような状況下において、誰もが参加できるコミュニケーションの機会やふれあいの場をつくり、老いも若きも笑顔でふれあう機会を増やすことが高齢者のフレイルを予防して健康寿命を延ばし、若年層の情操教育にも有効であると考えています。

このため地区社協では更なる福祉向上に向け地域の各種団体が横に連携して、全世代を対象とした施策を積極的に講じることとしています。

地区の状況	■地区民協		■町内会・自治会・区長会等	38団体
	民生委員	19名	■高齢クラブ	2クラブ
	主任児童委員	2名	■子ども会	19団体
	■まち協の設立	平成22年度	■自主防災組織	29組織

港があり、海運や商業の街として栄えた昔の情緒が現在も町並みに残っています。渡し船、三津浜焼など、町のブランディング化により、移住者や訪問者が増え、地区に盛り上がりが見られます。地区社協では、年間を通じて三津駅前の花壇整備を行い、住民や訪れる人の目を楽しませ、市内最大の花火大会においては、住民と中学生ボランティアが協力し、夏を盛り上げています。また高齢者が地域のリーダーとして活躍しており、健康寿命を延ばすことにつながっているといえます。一方で、既存の組織体制では地域団体の運営は困難になりつつあるという認識が住民にあることから、次世代育成、各種団体の横の連携、全世代を対象とした取り組みが期待されます。

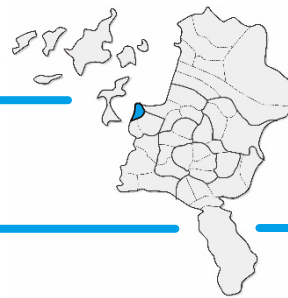


たか はま

高浜地区

人口:6,883人(高齢化率40.6%)

世帯数:3,516世帯

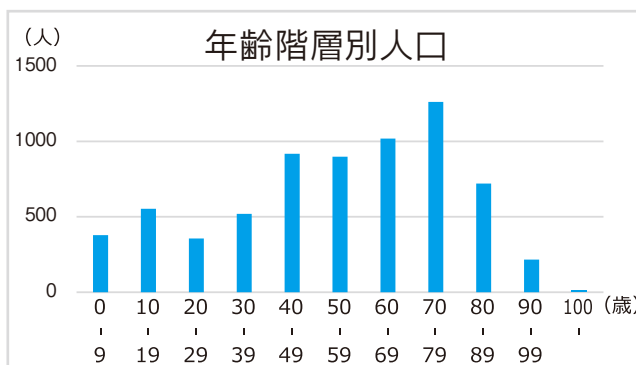


【地区の特色】

松山市の北に位置する高浜地区は、緑濃い山を背景に目の前には穏やかで美しい瀬戸の海を望む自然豊かな地区である。松山の海の玄関としての役割を持ち、文化財にも恵まれている。また、高浜は带状に長く、北から南まで5kmほどある。以前は農業と漁業のまちであったが、市内中心部にほど近いこともあり、最近では会社勤めの人が多くなってきている。



伊予鉄道梅津寺駅



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者、子どもたちへの挨拶や声かけがとても良くてできている ・地域行事への参加が多い(特に祭り好き) ・近隣住民の支援体制ができている ・隣近所の情報がよく分かっている ・タクシーを乗り合わせて買い物に行く近所づきあいがある ・U ターンして住む人や移住してくる若い世代(松ノ木・石風呂)もあり、住みやすく人気の地区である ・防災意識が高い(災害があったので) ・地区内に別荘地がある ・災害時の要援護者の把握ができている ・高浜地区の各種団体の連携がとれている ・食べ物(特に野菜)がおいしい ・移動スーパーが増えた
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・敬老会などへの参加者が少ない ・分館、集会所に駐車場がなく、行事への参加がしにくい ・スーパー、病院が少ない ・漁師の跡継ぎが少ない ・ループバスが通っているがバス停が少ないため、駅から離れた地域は交通手段に困る ・公民館の立地場所 ・幼稚園が無くなり小中学生の減少、更に子ども会に未加入が増え祭りができなくなった
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> ・南北に長いので生活状態が異なる ・地区内にスーパーがないため、買い物に不便 ・総合病院が遠いので不便 ・交通手段がないため、タクシーの利用頻度が高い(病院、買い物など)

高浜地区社会福祉協議会

海の高浜 福祉はひとつ

構成団体	地区民協・公民館・町内会連合会・まちづくり協議会・高齢クラブ連合会・保護司会 自主防災連合会交通安全協会高浜支部・警察協助手高浜支部 青少年健全育成連絡協議会・おやじの会・PTA・ノラねこ対策隊
------	---

主な取り組み	活動内容
3地区合同施設訪問	毎年、宮前・三津浜・高浜地区が合同で、地区外の福祉施設に入所された地元出身の方々を訪問・激励しています。
福祉学習事業への支援	毎年、小・中学生とその親を対象とした地引網や学校へ泊ろう大作戦、親子スポーツデーに助成し、活動を支援しています。
資源ごみの回収	プルタブ・ベルマーク・ペットボトルのフタを公民館で集めて小学校へ届けることで、小学校活動に協力しています。

友愛訪問（毎年3月1日）

福祉学習事業の一環として、高浜中学校の一年生と民生委員・児童委員が高齢者施設を訪問し、ゲームや話をするなど交流を深める活動をしています。また、中学一年生が独居高齢者の皆さん全員へ手紙を書き、民生委員・児童委員が、それを自宅へ届ける活動をしています。



<地区社協が目指すもの>

高浜地区は、松山観光港がある松山市の海の玄関口であり、また、夏目漱石の小説「坊っちゃん」に出てくる四十島（ターナー島）のある魅力あふれる地区です。最近では少子高齢化が進み、安心して住みよい高浜地区を目指すには、引続き基盤整備を行う必要があります。高浜地区社協・民協・公民館・町内会連合会の諸団体と令和元年度に発足した「まちづくり協議会」との連携強化により、この5年間で高浜地区の活性化が少し前進してきました。今後もこれを継続して誰もが住みやすい地域を目指していきます。また、海の玄関口である地域として、観光客にもいい印象をもってもらえる地域でありたいと思っています。

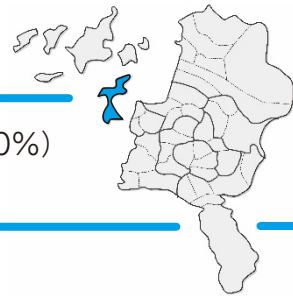
地区の状況	■地区民協	16名	■町内会・自治会・区長会等	16団体
	民生委員		■高齢クラブ	5クラブ
	主任児童委員		2名	■子ども会
	■まち協の設立	令和元年度	■自主防災組織	16組織

もともと防災意識が高かった地区ですが、防災力ひいては地域力が強化されています。平成30年7月豪雨では、住民が声かけしあい、早期の避難を実現、多数の土砂崩れにも関わらず、人命をまもることができました。この経験を教訓に、地区社協・民協と自主防災組織等の連携作りが行われています。一般的に災害では高齢者や障がいのある人の被災率が高いことから、この地区の取り組みは、全国のモデルとなります。子育て世代の応援体制が作られているのも特徴で、小中学生や親子向けの楽しい地域イベントへの支援を行っています。地区社協によるこのような取り組みや小学校活動への協力は、若い世代が地域に愛着をもつきっかけになっていると考えられます。



興居島地区

人口: 1,005人(高齢化率62.0%)
世帯数: 618世帯

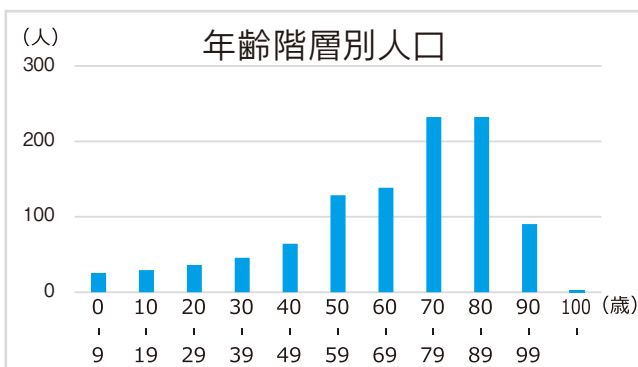


【地区の特色】

松山沖に位置し、瀬戸内特有の温暖な気候に恵まれ、人情味溢れる住民、おいしい柑橘・魚貝類など自然にめぐまれた地域である。最近が高齢化・少子化が進み人口減少が著しいが、縄文土器の出土をはじめ、古代伊予国の説話を伝える和気比売神社や平安時代からはじまると伝えられる県無形文化財指定の「船踊り」・「行基創建の観音寺」・「伊予の小富士山」など、島の歴史は古く奥深い。



無形文化財「船踊り」



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の団結が強い ・住民間でのつきあいがある ・治安がいい ・人が優しい、温かい ・子ども達からのあいさつが活発 ・海の幸、山の幸がある ・みかんがおいしい ・自然が多い ・釣り人が来る ・お試し移住施設(ハイムインゼルごごしま)がある ・ヘリポートが4カ所 ・島内に幼小中があり通える ・島内に診療所や福祉施設がある ・空き家の相談窓口設置 ・移住者の増加(5件) ・移住者家族に子育て世帯が増えている ・地区外に誇れる無形文化財「船踊り」がある ・ふれあいタクシーの運転手の研修を年間2名受けている(現在、車8台・運転手9名)
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・交通の便が悪い ・食堂がない ・獣害(いのしし) ・鳥害 ・空き家が多い(放置された空き家問題) ・農業をする若い世帯は通いで来ている ・運転手の高齢化 ・平地が少ない ・戸締まりをしない(無施錠) ・道路横の農地が放置され手が出せない
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者のみの世帯、高齢者の独居世帯が多いので身寄りが無い人が多くなった ・足腰が弱るとゴミ捨てや畑のある山に行けない ・災害発生時の避難補助が必要 ・子ども、若者が少ない ・公共の交通機関がない ・買い物や通院が不便 ・島外への病院(専門科)へ行きづらい ・介護保険で利用できる事業所の選択肢が少ない ・各町の婦人会組織が無くなっている(担い手不足) ・離島であることから、救急搬送の問題 ・海上タクシーが無くなった

興居島地区社会福祉協議会

思いやり 心で結ぶ ごご島の里

構成団体	地区民協・公民館・町内会・各町連絡会協議会・まちづくり協議会
------	--------------------------------

主な取り組み	活動内容
福祉学習の推進	小・中学校と連携し、高齢者サロンと子どもの交流や清掃活動など福祉学習の推進をしています。
各種団体への支援	島内で活動している様々な団体へ助成し、活動の支援を行っています。また、共同募金の配分金を活用し青少年の健全育成に寄与しています。
地区高齢者の見守り活動	地区民協と連携して島内の高齢者宅を訪問し、生活上の心配ごとを聞いて、必要であれば地域包括支援センターに繋ぐなどの活動を行っています。

ふれあいタクシー(過疎地有償運送事業)

島内には公共の交通機関がなく、移動手段のない住民を地域住民の手で支えるため福祉施設と連携して平成27年から「ふれあいタクシー」の運行を開始しました。令和4年度現在、車9台、運転手10名で運行しており、買い物や通院などに年間延べ約1,149名の利用があります。



<地区社協が目指すもの>

少子高齢化が著しく進む興居島地区の地区社協が目指す究極の形は、「島民同士が共に助け合いながら穏やかに安心して暮らすこと」に尽きると考えます。そのため、島民が助け合う仕組みの「ふれあいタクシー」をはじめ、県が進めるDXアイランド興居島事業で設置された「見守りカメラ」・「獣害罨センサー」・「防災ドローン」の導入や「空き家対策」・「移住者交流」など、あらゆる機会を通して「安心して暮らせる」仕組みづくりを目指します。

さらには、「心温まる声を掛けあう地域活動」の活性化などを通じて、地域福祉の推進を図ります。

地区の状況	■地区民協	12名	■町内会・自治会・区長会等	9団体
	民生委員		■高齢クラブ	6クラブ
	主任児童委員	2名	■子ども会	1団体
	■まち協の設立	平成29年度	■自主防災組織	9組織

人口減少が進む一方で、移住者が増加し、離島に新しい風が吹いています。公共交通はありませんが、ヘリポートが設置され、「ふれあいタクシー(過疎地有償運送事業)」の運営が行われています。担い手を確保し、取り組みを維持することは容易なことではなく、地域が協力して困難な地域課題に取り組む素晴らしい実践です。公共交通機関では難しい、細やかなニーズに対応し、島民の暮らしを支えています。子どもから高齢者まで、お互いに助けあう、声をかけあうという気持ちがあり、地区社協でも高齢者サロンで子どもとの交流を行うなど、つながりの機会を作っています。DXを活用した「安心」の島で、伝統を次世代に受け継いでいくことが期待されます。

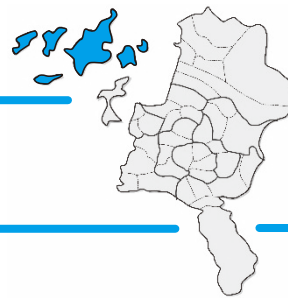


なかしま

中島地区

人口: 3,122人(高齢化率68.8%)

世帯数: 1,902世帯

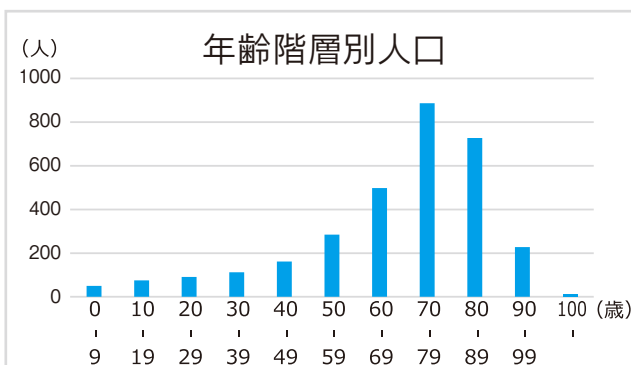


【地区の特色】

瀬戸内海の沖合いに浮かぶ中島は、6つの有人島と22の無人島から成っており、古くから忽那諸島と呼ばれ、豪族の忽那氏が瀬戸内海を舞台に活躍した栄華の名残りが今もなお跡をとどめている。温暖な気候と恵まれた自然があふれ、年間を通じて釣りが楽しめるほか、春にはみかんの花が咲き、夏にはトライアスロン大会や海水浴、秋には黄金色の実が甘い香りが島全体を包んでいる。



夏の風物詩 トライアスロン



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・住民が少数のため、災害時等の場合には協力体制は強い ・住民がみんな顔見知り ・地区消防団員の活動が盛ん ・隣組制度がある ・強い自治組織が確立されている ・配達(コープ)があるため子どもがいる家庭は便利 ・グラウンドゴルフ、クロツケーの活動が盛ん ・伝統行事を守ろうとする意識が強い ・みかん、魚がおいしい ・畑が借りやすい(移住者を呼び込みやすい) ・移住者が多い ・移動スーパーが新鮮 ・子育てに安心(外国人にも顔見知りがいる)
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・若者が少ないため新しい行事、活動に取り組む意欲がない ・島を盛り上げたいという一体感がない ・働く場所が無い ・様々な組織の会長、リーダーの高齢化、後継者不足 ・民生委員・児童委員、見守り員による活動範囲の限界 ・高齢化率が高く、災害時の避難行動が不安 ・休耕地、耕作放棄地が多い ・若者の結婚が少ない ・隣組制度が崩れてきている ・スーパーの閉店時間が早く、商品が古い
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の数が多い ・女性の高齢者、一人暮らしをする人が増加 ・会長、リーダーの高齢化・後継者不足 ・跡取り、介護者不足 ・若者が住めるための産業がない ・海のため、交通が不便 ・民生委員・児童委員、見守り員の高齢化により活動に限界がある ・高齢者の行く場所がない ・島で最期を迎えられない ・高齢者もしてもらっただけではなくできることをするという意識 ・独居ではない高齢世帯でも不安がある

中島地区社会福祉協議会

広げよう 6つの島の 福祉の輪

<拠点> 松山市役所中島支所2階 TEL:089-997-1822 / FAX:089-997-1833

構成団体	地区民協・公民館・総代会・松山市中島支所・サロン代表・福祉施設・学識経験者 ボランティア代表・議員
主な取り組み	活動内容
給食サービス	70歳以上の1人暮らしの高齢者・要援護世帯の方を対象に、春・秋・歳末に各地区民生委員が訪問しお弁当を配っています。
健康体操	1日でも長く自立した生活を送ることを目的とし、ストレッチと筋トレを行っています。毎週水・日曜日、参加費は無料です。
サロン事業	いきいきサロン10ヶ所、地域交流3ヶ所、地区社協独自1ヶ所の支援を継続して実施し、住民の交流の場の促進に努めています。

中島地区社会福祉大会

関係団体との連携を図りながら住み慣れた地域で誰もが安心して福祉サービスを利用し、個々の尊厳の保持と自分らしい生活を送ることができる地域社会づくりを推進することを目的として毎年開催しています。参加者の皆様の協力による「伊予柑1個運動」で集まった伊予柑を市内の福祉施設(児童養護施設等)へ贈っています。



<地区社協が目指すもの>

中島地区では急速な少子高齢化や人口減少社会の到来、情報化社会の進展など私たちを取り巻く社会情勢が大きく変化し、地域コミュニティにおける人間関係が希薄となる中で、児童虐待、引きこもりや孤独死、さらには高齢者を狙った振り込め詐欺など大きな社会問題が顕在化しています。

そのため、「誰もが笑顔で安心して暮らすことが出来る福祉のまちづくり」を推進していくためには、色々な社会問題に対し私たち住民自らが主体的に支えあい「自分たちの住む地域は自分たちで守り創る」という住民意識の醸成と実践が何よりも重要と考えています。

地区の状況	■地区民協	27名 2名	■町内会・自治会・区長会等	17団体
	民生委員		■高齢クラブ	0クラブ
	主任児童委員		■子ども会	0団体
	■まち協の設立	平成20年度	■自主防災組織	17組織

夏の風物詩、中島トライアスロンでは全国からのアスリートを受け入れ、島全体で盛り上げています。社会福祉大会では、島外の福祉施設に心をこめて育てた伊予柑を贈る「伊予柑1個運動」を行ったり、小学生が劇を上演したり、心温まる取り組みが行われています。災害時の協力体制や地区消防団員の活動など、皆が顔見知りだという点をいかした活動も活発に実施されています。地区社協による給食サービスやサロン事業は高齢者の孤立を予防し、交流を維持する基盤になっています。趣味やスポーツなど地域組織への参加は、特に健康に望ましいため、グラウンドゴルフ、ストレッチ等の活動の機会を維持し、健康寿命を延ばすことが期待されます。

